

今年度を振り返って

柳澤 保徳
奈良教育大学 学長

国立大学法人奈良教育大学として出発して早くも2年がたちました。6年間の中期目標期間の序盤を終えて、いよいよ中盤、これからは教育者の育成という本学の使命達成に向けて個性特色を発揮していきたいと思えます。

今年度の主な出来事をあげてみると、教育では、文部科学省の特別教育研究経費として採択された「新世代を先導する理数科教員養成プログラム」、ならびに教員養成G P (ゲッドプラクティス)として選定された「鍵的場面での『対応力』を備えた教員の養成」があげられます。特に後者は、本合併号でも取り上げられています。本学としてははじめて奈良市内の3つの小学校と提携し、学

部生・院生が学校を訪れ、教室内外の様々な場面での教育実践力を高めるための取り組みでした。また、入試では、将来地元奈良で教員を目指す県内の高校生を対象とした地域推薦入学(募集定員10名)を平成18年度から実施することとなりました。

学力低下の問題や、様々な学校教育の課題に学校や教員はどう応えるのか、さらに、教員を養成している大学はどう応えるのかという、質の高い教師の育成という大きな課題があります。先程の教員養成G Pもその一つの取り組みですが、さらに、現在も中央教育審議会で検討が続けられている高度専門職業人としての教員を養成するための専門職(教職)大学院の設置についても検討を行っ

ています。

国立大学に期待されている地域貢献の一つとして、ささやかですが附属図書館に「えほんのひろば」を開設し、地域のお母さんと子どもたちに図書室を開放しています。地域のボランティアの方々との協力を得て、本学の学生諸君も子どもたちへの絵本の読み聞かせを行っています。

もう一つは国際交流です。本学では中期目標に「アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際交流を広く推進する」としています。アジア地域で比較的古くから国際交流協定を結んでいるのはタイの41ラジャパット(地域総合)大学です。これらタイの大学との交流は関西地区にある6つの教育大

学・教育学部との連合形式で進められているのですが、昨年度、交流協定締結10周年を記念して関西地区の4大学代表団の一員として同国のいくつかの大学を訪問しました。タイは初めてでしたが、4つの大学の教育学部と附属学校(Demonstration school)でお話を伺いました。アジアの国々ではそれぞれの教員養成教育が行われていますが、これらアジアの国々の間で教育についても研究交流を深める必要性を感じました。また、新しく西安外国語大学(中国)、インドネシア教育大学とも交流協定を結びました。今後、学生交流・研究者交流の一層の発展を願っています。